

第8回九州 CT 研究会開催報告

第8回九州 CT 研究会は、テーマを「次世代 CT に対応する技術と責任」と題して、平成28年5月7日（土）北九州国際会議場にて開催された。

震災の影響から開催中止という選択もあったが「頑張ろう熊本、頑張ろう大分、頑張ろう九州」を合い言葉に、この九州 CT 研究会から復興に向けて「頑張ろうメッセージ」を届けようと開催が決定した。

参加者数が気掛かりではあったが、参加総数 305 名と盛会に終了することができ、改めて CT 検査に対する関心の高さを伺うことができた。

特別講演1では「X線 CT 撮影における標準化～GALACTIC の改定のポイント～」と題して千葉市立海浜病院の高木卓先生よりご講演いただいた。

初版が発刊されてから5年、「X線 CT 撮影における標準とは？」ということをもさらに追求し、よりエビデンスに基づいた内容となった。診療放射線技師が X 線 CT 撮影の標準的な検査方法を知ることの重要性を認識できた。読まれていない方は是非、一読していただきたいと思う。

特別講演2では「超高精細 CT (QDCT) の初期経験」と題して藤田保健衛生大学病院の井田義宏先生よりご講演いただいた。まだ研究段階ではあるが、CT 検査における質的な診断に大きく影響を与える装置であることから、様々な問題事項をクリアし早期にリリースされることを期待する。

研究会企画では「手術計画・術中ナビゲーションに役立つワークステーション処理」というテーマでシンポジウムが行われた。

非常にレベルの高い処理技術が公開されたが、技術の追求だけではなく、医師と技師の信頼関係を築き上げるためのコミュニケーションの大切さも知ることができた。手術支援のためのワークステーション業務は、ニーズとともにその重責を果たすために研鑽を積んでいく必要がある。

また今大会では、RSNA2015 Magna Cum Laude を受賞された佐賀県医療センター好生館の三井宏太さんより受賞記念発表が行われた。

この大会を通じ、進化していく技術や知識に対しての責任と調和は、我々診療放射線技師にとって背負っていかなくてはならない永遠のテーマだと感じた。

最後にランチョンセミナー、機器展示にご協力いただきました各メーカーに対しまして、心より感謝申し上げますとともに、九州 CT 研究会の更なる発展のために今後ともご支援、ご協力よろしくお願い申し上げます。

第8回九州 CT 研究会当番世話人
宮崎県立宮崎病院 蕪 俊二